

安房高等女学校木造校舎を愛する会

(旧安房南高校第一校舎)

会報 第2号

2018. 9. 15



【会員募集中】 年会費 1,000円
ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431
名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会

事務局：NPO法人安房文化遺産フォーラム
〒294-0036 千葉県館山市館山 1016 さらしな館
TEL&FAX：0470-22-8271 Eメール awabunka@awa.or.jp

*活動のお知らせ

安房高等女学校木造校舎を愛する会(以下「愛する会」)の発足から1年が過ぎ、会員は300名を超えました。この間、管理者である安房高校の許可を得て、有志による草刈りや掃除を11回、団体見学の対応を3回、映画鑑賞会1回を行いました。10年間使われていなかった学舎が再び手入れされ、命が吹き込まれていく様は心が洗われます。この活動が認められ、今年の見学会は、「愛する会」の協力のもと、事務局を担うNPO法人安房文化遺産フォーラムが、千葉県から公開事業を委託されることとなりました。つきましては、事前の草刈りや掃除、展示設営、当日の受付や駐車場係などのお手伝いくださるスタッフを募集します。力をあわせて、見学会を成功させましょう。

《当面のスケジュール》

見学会に向け、草刈りや掃除、展示設営などの準備を下記日程で1時間程度行います。ぜひ力をお貸し下さい。

- * 9月17日(祝) 7:00~
- * 9月24日(祝) 7:00~
- * 10月8日(祝) 7:00~
- * 10月13日(土) 8:00~
- * 10月20日(土) 8:00~
- * 10月21日(日) 8:00~

旧千葉県立安房南高等学校の

木造校舎 一般公開

※ なるべくスリッパや上履きをご持参ください。

平成30年

10/27

10:00~15:00

(土)

*見学会

- 校舎ガイドツアー 10:00/11:30/14:00
- 書道パフォーマンス(安房高校書道部) 11:00/13:30
- 吹奏楽演奏(安房高校吹奏楽部) 13:00
- 黒板アート・作品&写真展(安房高校美術部・写真部等)
- 美術展(安房南高校・安房高校ゆかりの教職員)
- 安房高等女学校から安房南高校までの歴史写真ギャラリー
- 安房地域の歴史文化の紹介
- ぬか雑巾で木造校舎の床磨き体験 … など

主催：千葉県教育委員会・千葉県立安房高等学校
企画運営：NPO法人安房文化遺産フォーラム
協力：安房高等女学校木造校舎を愛する会

オプション企画

10/28

13:30~15:00

(日)

*ミニ講座&証言の会

主催：NPO法人安房文化遺産フォーラム
安房高等女学校木造校舎を愛する会

校舎に残る貴重な資料から、歴史の調査研究を進めています。戦前の安房高女や新制高校の歴史を聞き、思い出話を語り合しましょう。懐かしい昔の写真や記録をお持ちの方は、ぜひご持参下さい。

ふるって
ご参加ください。



二列に並んで整然と歩く若い女性たち。夏らしくみんな白い上着、中には制服姿の子も。下はもんぺ姿で下駄履きだ。手にしているのは木口という手製の布袋や手提げかばん。戦時中にしては表情が明るく、街の雰囲気もなんとなくのどかだ。実は長い戦争が終わったばかりの昭和二十(一九四五)年九月二十日。今から七十二年前の千葉県館山の昼下がりに。

写真を撮影したのは米軍写真班。英文説明を見ると「行進しながら学校から帰る少女たち」とある。終戦とともに連合軍は東京湾からも上陸し東京や横浜、千葉県などには大勢の進駐軍が駐留した。少女たちは高等女学校の女生徒らしい。集団の下校は戦時中から



訪れた平和と希望の日々

の習慣なのか。あるいは進駐軍兵士からのトラブルを避けるためだろうか。背後の建物は商店街らしく「接骨院」などの看板が見える。どうやら空襲を免れたようだ。

戦時中、少女たちはお国のための教育や軍事訓練を受け、工場などに動員されて勤労奉仕に明け暮れた。だが戦争に負けてすべてが消滅し、まったく別の新時代が始まる。国を信じていた少女たちも一時は泣いたかもしれない。だが爆弾のない平和な日々は何にも増して尊い。当時の疎開児童に幾度も取材してきたが誰もが異口同音に言ったものだ。「戦争が終わった時は本当にうれしかった。これで家族と平和に暮らせる」と。

「明るい日差しを受けて、集団で歩む少女たちの写真にはなぜか希望を感じさせるゆりしさが見える。きっと平和を喜び戦後の荒波の中を一生懸命生きていったことだろう。」

文・田中 哲男 写真・米国立公文書館

*ありし日の証言

昭和20年9月、館山では米占領軍による直接軍政が4日間敷かれ、戦後日本のスタートの地となりました。

安房南高校教員だった高橋澄子先生から、「私が写ってるわよ」と連絡をいただき、一緒に登校していたお友達の名前もわかりました。

10月28日(日) 13時半より「ミニ講座&証言の会」では、学校と地域の歴史を知り、卒業生からの大切な証言をお待ちしています。



*石原裕次郎の主演映画

昭和33年、安房南高校を舞台に、石原裕次郎が体育教師役の映画『嵐の中を突っ走れ』が撮影されました。

当時在校生だった出山初枝さん(第11回卒)と、館山高校生だった渡辺美佐子さんから写真をお借りしました。バスケットボール部の試合では、安房南高校と館山高校の運動部員が応援団として出演したそうです。

10月27日(土)の見学会では映画のシーンをパネル展示で紹介します。



石原裕次郎と館山高校生 (提供: 渡辺美佐子さん)



正門前の石原裕次郎と中原早苗 (提供: 出山初枝さん)

制服に残る「女子校の誇り」

千葉県立安房高校

7

ファッションデザイナー 島田順子さん＝1960年度卒



2008年に安房高に統合された女子校、安房南高は、1907（明治40）年に安房郡立女子技芸学校として設立され、何度も学校名を変更しながら地域の女子教育の中心を担った。校名が安房二高だった当時の卒業生に、パリ在住の世界的なファッションデザイナー、島田順子さん（76）＝60年度卒＝がいる。ほぼ1世紀にわたる2万2000人余の卒業生を送り出した女子校の統合に際し、OGたちは島田さんに新卒、安房高の女子制服のデザインを依頼した。「女子校の誇り」は、制服の形で、今も安房高に生き続けている。

【中島章隆】

私が入学したころの校名は安房二高でした。当時は校門まで長く美しい桜並木が続いていました。校舎内はヒカヒカと磨き上げられた廊下で、フリースカパーが映る。そんな魅力にあふれた学校でした。

安房二高に憧れていたのは、実は私ではなく、明治生まれの父でした。女ばかりの6人姉妹で、一番上の姉とは7歳差なのですが、3人の姉も妹もみんな安房二高です。父が夢見た女性像、憧れの女学生が安房二高だったんですね。その父は98歳まで長生きし、昨年十三回忌をしました。

小さいころから父の願う

2008年の統合に向けて、安房高と安房南高（当時）の間では何度も協議会が開かれた。授業のカリキュラム制定などでは安房高側が主導権を握ったが、南高側が「譲れない一線」としたのが、新しい女子制服のデザインだった。

04年から4年間、南高の最後の校長を務めた岩崎弘さん（70）＝館山市下真倉＝は、くしくも安房高の卒業生（1965年度卒）だ。生徒数が減少し統合は仕方なかったが、100年の歴史がある南高にも多くの優秀な卒業生を送り出した伝統があり、これを統合校でどう生かしていくか。同窓会（芳頭会）のみなさんも真剣に考えたという。

岩崎さんが「卒業生の島田順子さんデザインで、新しい制服を」

「早く館山を出たい」という思いは当時から強かったですね。高校を卒業して杉野学園ドレスメーカー女学院のデザイン科に進みました。実はデザイナーを目指したわけではなく、小学生のころ、実家に寄宿していた画家の先生に、絵面の魅力が教えてもらった影響が大きかったと思います。

初めてパリに渡ったのは25歳の時。誘ってくれた友達と都合で行けなくなって一人で行ったのですが、映画で憧れていたパリの魅力にすっかり引き込まれてしまいました。いったん日本

「早く館山を出たい」という思いは当時から強かったですね。高校を卒業して杉野学園ドレスメーカー女学院のデザイン科に進みました。実はデザイナーを目指したわけではなく、小学生のころ、実家に寄宿していた画家の先生に、絵面の魅力が教えてもらった影響が大きかったと思います。

初めてパリに渡ったのは25歳の時。誘ってくれた友達と都合で行けなくなって一人で行ったのですが、映画で憧れていたパリの魅力にすっかり引き込まれてしまいました。いったん日本

に帰ってから、次は生活する覚悟を決めてパリに移り、語学学校の壁に貼られた「ベビシッター募集」からパリ暮らしが始まりました。あれからもう50年になるのですね。

ふるさとを離れて余計に思うのですが、館山の海も山も大好き。最近はまだ帰れなくなっていますが、以前は年に7、8回は日本に来て、そのたびに館山に戻っています。友達と一緒に買ったヨットで沖に出れば、引き込まれるような青い海。この美しさが私のデザインの基調になっているんです。

安房南高が08年に安房高

と合併することになったとき（女子生徒の）制服のデザインの依頼を受けました。大変名譽なこと、天國の父も喜んでくれると思います。品良くすてきて、誰にも似合いそうにーと、これまでの仕事で一番緊張しました。

今の高校生に贈る言葉なんて、劣等生だった私にはおこがましいのですが、八方美人のいい子にならず、周囲に反対されても興味のあつたものをとことん追い求めてほしいですね。基本をしっかり勉強すれば、必ず役に立ちます。

デジタルラス 動画

しまだ・じゅんこ 1941年館山市長須賀生まれ。67年に渡仏。パリの百貨店ブランドの研究室、デザイナー集団などで実績を積み上げ、81年に独立。「JUNKO SHIMADA」ブランドを発売し

高い評価を得る。パリコレクションに81年から72回連続して発表を続ける世界のトップデザイナー。現在はパリで娘と孫と暮らす。型にはまらない生き方も若い人に大きな影響を与えている。

高校に入ることが一番の親孝行だと思っていました。でも、姉たちは成績も良く

「目に見える伝統」統合校に残す

南高校舎は文化財に

2008年の統合に向けて、安房高と安房南高（当時）の間では何度も協議会が開かれた。授業のカリキュラム制定などでは安房高側が主導権を握ったが、南高側が「譲れない一線」としたのが、新しい女子制服のデザインだった。

04年から4年間、南高の最後の校長を務めた岩崎弘さん（70）＝館山市下真倉＝は、くしくも安房高の卒業生（1965年度卒）だ。生徒数が減少し統合は仕方なかったが、100年の歴史がある南高にも多くの優秀な卒業生を送り出した伝統があり、これを統合校でどう生かしていくか。同窓会（芳頭会）のみなさんも真剣に考えたという。

岩崎さんが「卒業生の島田順子さんデザインで、新しい制服を」



島田さんがデザインした統合安房高の女子制服。上着は濃紺のダブル。スカートは旧安房高の箱ヒダと、旧南高のフリースを取り入れた折衷型で、それぞれの伝統に配慮した。

と主張したのは言うまでもない。「制定された制服が不手通り、安房高は今も南高の歴史を尊重して「譲れない一線」と感謝する。」

30（昭和5）年に建てられた安房南高の第1校舎は、日本古来の木造建築技法に加え、人工石やレンガを巧みに組み合わせた「アーブル・テコ様式」。95年、昭和以降

安房高との統合後、閉鎖されていたが、卒業生たちの声に応える形で2013年以降、年に1度、一般公開され、多くの卒業生たちが訪れている。校舎内の廊下は磨き上げられて黒光りを放ち、今も島田順子さんが通った当時の輝きを保っている。

⇨次回は最終回。8月1日に掲載します

の建築物としては初めて千葉県のある文化財に指定され、同市北条に現存する。

安房高との統合後、閉鎖されていたが、卒業生たちの声に応える形で2013年以降、年に1度、一般公開され、多くの卒業生たちが訪れている。校舎内の廊下は磨き上げられて黒光りを放ち、今も島田順子さんが通った当時の輝きを保っている。

⇨次回は最終回。8月1日に掲載します

*生徒2人像

安房高校と統合された2008年は、安房南高校が前身の安房郡立女子技芸学校として設立されてから百年目でした。

同窓芳誼会ではこれを記念し、安房南高校木造校舎の前庭にブロンズ像を建立しました。製作者は、同校美術教師だった彫刻家の船田正廣氏です。

明治期の袴姿の女学生と戦後のセーラー服の女子高生。時代を超えて寄り添う二体像は、木造校舎とともに未来永劫、この地に残る文化遺産です。

木造校舎内には、歴代の懐かしい制服が展示されています。



アフリカに「安房南」という学校があるのを知っていますか。

房日新聞 2001.7.10 付

ウガンダに待望の 安房南洋裁学校



**バザーや募金などの
支援活動資金で設立**
16日お礼に活動家のセンパラさん来校

内戦とエイズ禍に苦しむウガンダに16日、安房南に16年近く続いた「AWA MINAMU」と名づけられた洋裁学校で、正面には南高の校章も掲示されている。今回センパラさんは、NGOの招きで来日しているもので、年々増えているウガンダの孤児たちを支援するために、この学校を設立した。センパラさんは同日南高で開かれる生徒総会に顔を出し、これまでの支援活動に対しお礼を述べた。そのあと、懇親会も予定されている。

は10年近く続けられ、毎年ひかりの祭で、生徒会とボランティア委員が中心となってウガンダ支援バザーを企画。その売上金や生徒、父兄、市民から寄せられた善悪の寄付金がウガンダに届けられている。それらのお金を基に昨年、職業技術訓練施設が現地にて建設された。

「AWA MINAMU」と名づけられた洋裁学校で、正面には南高の校章も掲示されている。今回センパラさんは、NGOの招きで来日しているもので、年々増えているウガンダの孤児たちを支援するために、この学校を設立した。センパラさんは同日南高で開かれる生徒総会に顔を出し、これまでの支援活動に対しお礼を述べた。そのあと、懇親会も予定されている。

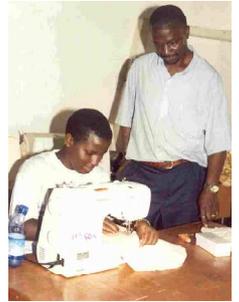
1994年、安房南高校では内戦後の苦境にあったウガンダを支援するためのボランティア活動が始まりました。

ウガンダ意識向上協会（CUFI）のステュアート・センパラ氏が来校し、エイズの蔓延で増加した孤児の窮状を訴えたのです。心を動かされた生徒たちは、保護者や市民に呼びかけて、救援物資を集め、文化祭・ひかり野祭で「ウガンダの子供たちを救おう」を合言葉に、バザーや募金を行い、衣類や生活用品を送りました。これを契機に、生徒会は毎年支援金を送り続けました。CUFIでは、孤児が小学校へ行かれるように、生活や送迎の補助、農園運営で自給

自足など、様々な取組みをしています。7年目を迎えた2000年、支援は大きく実を結びました。廃科となっていた家政科のミシンを寄贈し、職業訓練施設が開かれ、「安房南洋裁学校」と命名されました。2008年の統合により、安房南高校はその名が消えてしまいましたが、地球の裏側に「安房南」の名が残ったのです。

支援・交流活動は、統合先の安房高校JRC（青少年赤十字）部が引き継ぎましたが、後に廃部となり、2014年からは安房西高校JRC部がバトンを受け継ぎ、24年目を迎えました。ウガンダの校舎には、安房南高校の校章が掲げられましたが、上下逆さまなのはご愛敬ですね。

20周年記念として、安房南高校生徒像（船田正廣制作）を贈りました。



ウガンダの子供たちを救おう!

10月1、2日文化祭で救援物資受け付け

10月7日(日)
ウガンダ支援バザー
in 館山病院感謝祭

9月16日(日)~10月7日(日)
ウガンダの人びとと暮らし写真展
in 館山病院ギャラリー

このため、各家庭にある文房具や直類、生活用品等でお持ちできるものがあればご持参して欲しいと思っています。

救援物資の受け付けとバザーの開催は、アフリカのウガンダでは、両親がエイズで死んでしまったために孤児が増加しているという現状から子供たちを救おうというものです。

安房南高校の校内文化祭・ひかり野祭が、来月、10月の山口開されるが、文化祭の中で同校生徒会生活委員会が、ウガンダの子供たちを救おう、を合言葉に、救援物資の受け付けや物資輸送費をねん出するためのバザーなどを実施することになり、協力をお願いしている。

【安房南高校生徒会】
衣類や生活用品
抛出協力呼びかける

同校の第二十五回ひかり野祭は、同校生徒会を中心とする文化祭で、今年度のテーマは「Girls' Ambition」(少女の野望)とあり、活劇やバンド演奏なども行われる。

*10月はウガンダコーヒーを飲みましょう!

お店によって「喫茶・豆の購入・焙煎」の可否が異なります。以下の協賛店または事務局にお問い合わせください。

【館山市】 館山焙煎工房カフェポラリス、プロワ珈琲焙煎所
茶房はたやま、里見茶屋、ロジェルージュ、茶房カフェ・ノワール
トレイクルマーケット&コーヒー、パン工房ばんばん、マリヌ
館山中村屋、安房自然村レストランカフェ「花回廊」
再活(リサイクル)家具&カフェあぢまあ家、田中惣一商店(田中金物店)
芳喜楼、ウェストベニンシュラホテル(会員制)

【南房総市】 道の駅とみうら枇杷倶楽部、Hotel & Resort 南房総、
スープのよろずや「花」(花の谷クリニック内)
ギャラリー&スペース MOMO

【事務局】 NPO法人安房文化遺産フォーラム 090-3218-3479



2018年8月、「愛する会」の会員でもある3名(河辺智美さん・愛沢香苗さん・鈴木正博さん)がウガンダを訪問し、これまでの支援成果を視察するとともに、交流を深めてきました。

安房南洋裁学校は現在生徒6名で、電力の不安定など課題が多い状況です。近い将来、完成度の高いアクセサリーや衣装、カバンなどを作れるようになり、日本の皆さんとコミュニティトレードをしたいと希望しています。

また、ウガンダはアフリカ2位のコーヒー生産国です。10月には、ウガンダの美味しいコーヒーを愛飲し、地球の裏側の「安房南」とつながるキャンペーンを企画しました。